

## 従来の NGO 等による MSM に対する普及啓発の効果検証と新規感染者減を目的とした普及啓発の地域、集団、時期及び方法の検討

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部国際保健看護学）

### 要旨

本研究では、日本国籍若年 MSM が多く来場する名古屋市無料 HIV 検査会受検者の社会、疫学的情報を明確化し、有効な普及啓発を検討することを目的とする。調査対象は、名古屋市無料 HIV 検査会に来場したものとする。平成 28 年度第 1 回検査会では、総計 579 名の有効回答を分析対象とした。第 1 回の検査会については、居住地別（①名古屋市②名古屋市外の愛知県③愛知県以外の東海地域居住者）解析を行った。第 2 回検査会は、従来のゲイバイセクシュアル男性限定の枠を取り、全てのセクシュアリティを対象とした性病検査会とし場所も名古屋市中心の利便性の高い場所にて実施した。136 名の有効回答を分析対象とした。

第 1 回検査会の分析から、名古屋市は生涯初受検の割合は他地域より低く、直近の検査時期が「半年以内」であるものが 28% と他の地域より高かった。名古屋市 (31%) よりも愛知県 (41%)、その他東海地域群 (43%) のほうが過去 6 か月の有料ハッテン場利用は高く、直近の性行為相手の出会いの手段としても有料ハッテン場を挙げる者の割合が高い傾向にあった。名古屋市群は、検査を定期的に受検し、予防介入が行き届いた層が多く、感染のリスクが高く検査の機会が少ない層は、市外の郊外居住者に多い可能性が示唆された。

第 2 回の無料検査会の受検者は、従来より高い年齢層やバイセクシュアル層、生涯初の検査受検者も増加し、場所と対象者層を変えたことで、新たな受検者層を巻き込んだ可能性が示唆された。

### A. 研究目的

新規感染者数の抑制と早期診断のために、男性間で性的接触を行うもの、その他の層の実態を把握し、効果的な知識の普及啓発、検査の普及が重要となる。本研究では、日本国籍若年 MSM が多く来場する名古屋市無料 HIV 検査会受検者の社会、疫学的情報を明確化し、有効な普及啓発を検討することを目的とする。また最終的には、名古屋市無料 HIV 検査会の受検者動向の推移を見ることで啓発効果を検証する。

### B. 研究方法

調査対象は、名古屋市無料 HIV 検査会に来場したものとする。検査会では、会場にて、スタッフがアンケートへの協力を口頭にて依頼し、検査会場（採血前）にて、受検者に記入を依頼した。質問項目は、基礎属性、検査受検歴、性行動、性感染症の罹患経験、予防啓発の認知を含んでいる。平成 28 年度第 1 回検査会では、総計 579 名の有効回答を分析対象とした。第 1 回の検査会については、居住地別（①名古屋市②名古屋市外の愛知県③愛知県以外の東海地域居住者）解析を行った。

第 2 回検査会は、従来のゲイバイセクシュアル男性限定の枠を取り、全てのセクシュアリティ

を対象とした性病検査会とし場所も第 1 回検査会と同じく、名古屋市中心の利便性の高い場所にて実施した。136 名の有効回答を分析対象とした。

データの解析には SPSS-ver19.0 を用いた。統計学的有意水準は 5% を採用した。なお、全ての調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より承認を得たうえで実施した。

### C. 研究結果

#### 【第 1 回検査会 居住地別解析】

生涯初受検の割合は、名古屋市は 14%、愛知県は 18% その他東海地域群では、20% と差が見られた。

直近の検査時期は名古屋市群では、「半年以内」と回答したものが 28% と他の地域より高かった。梅毒の既往歴は、名古屋市の 12% よりもその他東海地域群が 15% と高かった。名古屋市外群の方が、検査受検理由として、感染可能性がある、他人に感染させたくないを挙げるものが多かった。

名古屋市 (31%) よりも愛知県 (41%)、その他東海地域群 (43%) のほうが過去 6 か月の有料ハッテン場利用は高く、直近の性行為相手の出会いの手段としても有料ハッテン場を挙

げる者の割合が高い傾向が見られた。

#### 【第2回検査会】

50歳代の受検者が13%と従来検査会より増加し、受検者におけるバイセクシュアル男性の割合が24%と従来検査会より増加した。生涯初の受検者の割合は昨年より10%増加した。検査受検理由として、定期的にうけているからは従来より減少し、予防無しのオーラルセックスを理由に挙げるものが増加した。性感染症既往歴のあるものが39%であった。

#### D. 考察

名古屋市群は、検査を定期的に受検し、予防介入が行き届いた層が多く、感染のリスクが高く検査の機会が少ない層は、市外の郊外居住者に多い可能性が示唆された。

第2回の無料検査会の受検者の属性を過去の検査会の属性と比較すると、高い年齢層、バイセクシュアル層が増加し、生涯初の検査受検であるものも増加し、予防なしのオーラルセックスによる感染不安を受検理由として挙げるものが増加した。場所と対象者層を変えたことで、新たな受検者層を巻き込んだ可能性が示唆された。

#### E. 結論

今後は名古屋医療センターの受診者群と検査会受検者データを比較し、より感染リスクがある層の背景を明確化し、有効な検査普及啓発への検討へとつなげる必要がある。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) ○Kaori Nagai, Akiko M. Saito, Toshiki I. Saito, Noriyo Kaneko: Reporting quality of randomized controlled trials in patients with HIV on antiretroviral therapy: a systematic review. *Trials*, Dec 28;18(1):625. DOI 10.1186/s13063-017-2360-2
- 2) Kang KA, Kim SJ, Kaneko N : Factors influencing behavioral intention to undergo Papanicolaou testing in early adulthood: Comparison of Japanese and Korean women. *Nurs Health Sci.* 2017 Dec;19(4):475-484.
- 3) Kang, Kyung-Ah & Kim, Shing-Jeong & Noriyo, Kaneko & Cho, Haeryun & Lim, Young-Sook. (2017). A Prediction of Behavioral Intention on Pap Screening Test in College Women: A Path Model. *Journal of Korean Public Health Nursing.* 31. 135-148. 10.5932/JKPHN.2017.31.1.135.

4) ○金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態- 2009年調査と2012年調査の比較-. *日本エイズ学会誌*, 2017, 19(1):16-23.

##### 2. 学会発表

- 1) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko, Michiyo Higuchi : Survey of school nurses' experiences providing counseling on sexual orientation to junior and senior high school students in Japan, The 49th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Korea, 2017年8月17-19日.
- 2) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚平, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一: akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017年11月24-26日
- 3) ○木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島岳, 金子典代, 市川誠一: コミュニティセンターakta を起点とするアウトリーチ活動の効果評価, 第31回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2017年11月24-26日